

アソビカルチャー

富士宮市原で野菜を栽培しているアソビカルチャーと申します。飲食店を中心と販売するとともに、お客様が自由に畑に来て収穫体験などができる体験農園もやっています。

昨年新規で就農し、有機だから形が悪いとか虫食いが多いなど不健康的に育った野菜ではなく健康的に育った秀品率の高い野菜づくりを目指しています。とにかく野菜をつくるのが好きで毎日の野菜をつくる



畑で収穫体験をしている様子



アソビカルチャー 渡邊 親
就農:平成26年4月 畑の場所:富士宮市 原
栽培面積:畑100a 栽培作物数:40種類
主力作物:ゴボウ、人参、葉もの
連絡先:asobiculture.webcrow.jp/

うか、どんな肥料を使おうか、どんな管理方法にしようかというのをずーっと考えている農業マニアです。

そんな農業の楽しさを少しでも味わってもらいたい思いから、ただ販売するだけでなく体験農園として畑を開放することにしています。

また、自分たちの服装や農園の見せ方をカジュアルにし身近に感じてもらえる農園づくりを心がけています。

(2015年3月記)

「有機の郷づくり」

日本全国には「有機農業の郷(さと)」と呼ばれるような地域がいくつかあります。埼玉県の小川町や、山梨県の北杜市などが有名どころですが、静岡県富士宮市も近年、「有機の郷」と呼べる地域になっていきます。

富士山麓有機農業推進協議会には、30人の有機農家が所属しています。(平成28年)

県の農林事務所によると、この数は静岡県では最も多い地域なのだそうです。

ちなみに、日本の有機農家の戸数は12000戸ということで、農家の総数の0.5%しかいません。(この数字は、有機JAS認定農家と、そうはなない農家を合わせた数です) 富士宮市に置き換えてみると、市の農家戸数は専業・兼業合わせて約1000戸ですので、その内の30戸というところと3%強となります。

協議会に入っていない有機農家も同じくらいの戸数と推定すると6%ほどになります。

ヨーロッパは有機農家が多いと言わ

れています。ドイツで6%くらいなので、富士宮はドイツ並みと言えます。そうは言っても全体の割合としては有機農業はかなり少数派です。

日本には有機農業推進法という法律があり、富士山麓有機農業推進協議会でも、そんな法律の流れて組織され、富士宮市・富士市を中心とした地域の有機農業の普及と発展を目的としています。これには有機農家自身が努力していくことはもちろんですが、地域の「理解」がないといけません。有機農業を始めたと言っていると、そんな農業やめておけ、と言われる自治体が多いと聞きますが、富士宮市は有機農業に理解があり、有機農業を始めやすい地域と言えます。しかし、有機農業のやり方は草ばかり生やして畑をしっかり管理していない、けしからんやつらだ! と思っている人も実際少なくないです。

だからこそ、この協議会の活動を通して、地域に理解される、地域に愛されるような有機農家となり、富士宮と言えば「有機の郷」と言われる地域にしていきたいです。

(ふじの宮したの畑 宮下亮太)